

令和元年度 事業報告書

(自平成31年4月1日～至令和2年3月31日)

公益財団法人 全国学校農場協会

〈概 要〉

本来は令和2年5月8日開催の令和2年度第1回理事会及び令和2年5月22日開催の令和2年度定時評議員会において、平成31年度（5月1日元号が令和へ改元）事業報告並びに決算報告、また、令和2年度事業計画、並びに収支予算（案）、役員退任に伴う新役員の選任等の審議・承認を得て新事業年度へ出立する計画であった。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴って緊急事態宣言が発出され、不要・不急の外出や多人数での行事や集会の自粛など密閉・密集・密接状態を回避することへの強い要請が出され、前記理事会並びに評議員会を開催することが出来ないこととなった。

その為、上記審議・承認事項については一般法人法第96条及び第194条「決済の省略」に対応して処理し、文書決裁を以って各理事並びに各評議員の議決権行使の結果を確認した。その結果、全ての決議事項について全理事・全評議員から「承認」との確認をすることが出来た。当該事業年度の計画に基づいて実施した事業の概略は次の通りである。

農業教育の発展と振興並びに農業技術の向上を図る事業（公1）として以下を行った。

全国大会・支部大会での農業教諭による研究発表及び各界のリーダーやプロフェッショナルを招聘しての講演会（コモンズ代表 大江 正章先生他）を開催した。

また、農業教育研究協議会では農業教育に関する調査・研究成果の発表と協議及び講演会（明治大学農学部 食料環境政策学科教授 小田切 徳美先生他）を開催した。

農業教育功労者表彰は、全国各支部から推薦のあった候補者について審査委員会を開催し、厳正な審査を行い全国137名に授与した。

フォーラム・シンポジウム等の開催については、農業女子フォーラムを中国地区が担当して岡山県で開催、地域住民や農業経営者・就農者、農業大学生等の幅広い参加者を得て成果の高い有意義なフォーラムであった。シンポジウムについては、農業高校支援機構との協力開催のもと、従来からの継続で3F⇒食（Food）・農（Farm）・祭（Festa）をキーワードとして、「我々はどこを目指しているのか」をテーマにオープン・ディスカッションを実施した。農耕農村史、農村生活・文化等その領域を専門とする研究者、農業教員、学生・生徒、をはじめ一般市民の参加も得て体験談や活発な意見交換が行われ参加者から極めて有意義な会であったとの評価を得た。

学術・科学技術の振興を図る事業として、全国6地区で農業実験実習講習会を実施した。この講習は教員免許状更新講習（4地区で実施39名／83名中）の選択領域について文部科学省から認定されており免許状更新講習該当者を含め全体で83名の受講者を得た。

農村文化・芸術・文芸に関する事業では、農民文学会との共催による全国農業関係高等学校エッセイコンテストを実施した。全国から多数の応募があり、長野県佐久平総合技術高等学校3年小松 大晴君が最優秀賞に輝いた。作品は農民文学会機関誌、農業教育新聞、当協会機関新聞及びホームページに掲載した。

また、棚田学会と協催している農業関係高等学校 農業・農村フォトコンテストには、生

徒52点、職員6点合計58点の応募があり、生徒の部の最優秀賞に埼玉県立熊谷農業高等学校篠田 渉君が、職員の部の最優秀賞に長野県下高井農林高等学校の小松 和也先生が輝いた。

その他、機関新聞の定期発行、研究集録の刊行、農業学習ノート・実習手帳の発行等、農業並びに農業教育の振興・啓発をする刊行事業にも積極的に取り組んだ。

以上、当公益財団法人が定款に定める目的を達成するために令和元年度に実施した事業並びに調査・研究活動の実施、また農業及び農業教育の充実・振興と啓発をするためのフォーラムやシンポジウムを開催してきた。その概略をここにまとめたが、いずれの取り組みも改善を要する課題はあるものの外部の人々や参加者・支援者等の評価から、前もって想定していた成果と目的は十分に達成できたと考える。今後も実施するそれぞれの事業や取組の検証を怠ることなく組織を挙げて更なる発展と充実を図って参りたいと考えている。

I 各種事業活動の実施報告

1、農業教育（農業技術）の発展と振興を図る事業・・・(公1事業)

1) 教育行政・農政・学術・学際的講演及び研究発表による農業教育を推進する事業

※原則一般公開：内容等詳細は本協会ホームページにて告知

(1) 講演事業

『全国大会講演』・・・全国高等学校農場協会と共催

講演1、「高等中等教育の現状と課題」

文部科学省初等中等教育局

産業教育審議官 田村 真一 先生

講演2、「21世紀はローカルと農の時代」

コモンズ 代表 大江 正章 先生

『農業教育研究協議会講演』・・・全国高等学校農場協会と共催

講演1、「高等学校教育の現状と課題について」

文部科学省初等中等教育局

参事官（高等学校担当） 塩川 達大 先生

講演2、「新規就農対策について～農業高校に期待すること～」

農林水産省経営局就農・女性課

課長 横田 美香 先生

講演3、「農山村再生—新しい動き—」

明治大学農学部食料環境政策学科

教授 小田切 徳美 先生

『各支部大会講演』・・・全国高等学校農場協会各支部と共催

北海道支部 「魅せる農業！～北国の気候・風土を

生かした北海道ガーデン～」

	上野ファームガーデン デザイナー	上野 砂由紀氏
東北支部	「持続可能な農業について～震災から学んだこと～」	
	株式会社 マイファーム	
	代表取締役	西辻 一真氏
関東支部	「シビエとその活用～国産シビエ利活用に関する概況」	
	一般社団法人日本シビエ振興協会	
	理事長	藤木 徳彦氏
北信越支部	「食農と環境／生命をつなぐ・食事訓から農家五訓」	
	福井県立大学 学長	進士 五十八氏
近東支部	「山地酪農と本当の“しあわせ”」	
	なかほら牧場 牧場長	中洞 正氏
中国支部	「全国の高校事例に見る これからの農業教育の展望」	
	山口大学・大学研究推進機構知的財産センター	
	特命准教授	陣内 秀樹氏
四国支部	「ゆずの食文化を世界へ」	
	馬路村農業協同組合代表理事	
	組合長	東谷 望史氏
九州支部	「日本の農業をめぐる最近の状況」	
	NHK解説主幹	合瀬 宏毅氏

(2) 調査・研究の事業

『全国大会研究発表・研究協議』

発表1：「GAP教育推進プロジェクトにおける取組について」

北海道岩見沢農業高等学校 教諭 松田 直也

発表2：「プロジェクト学習による基礎的・汎用的能力の育成」

静岡県立藤枝北高等学校 教諭 西尾 眞一

発表3：「城西発！次代へつなぐ JAPAN BLUE！～阿波藍6次

産業化プロジェクト学習による生徒のスキルアップを目指して～」

徳島県立城西高等学校 教諭 川西 和男

『支部大会研究発表』・全国高等学校農場協会各支部と共催

北海道支部 研究主題「グローバル化に対応するため、

科学的な視点を踏まえた農業教育の実践」

「グローバル化や法人化、6次産業化や企業参入に対応した

経営感覚の醸成を図るにはいかにあるべきか」

北海道士幌高等学校 教諭 中野 泰弘

「持続可能で多様な環境に対応したグローバル人材育成の
充実を図るにはいかにあるべきか」

北海道岩見沢農業高等学校 教諭 山口 博文

「科学的な根拠を踏まえた地域資源の活用やヒューマンサービス分野にお
ける創造的・実践的な人材育成の充実を図るにはいかにあるべきか」

北海道剣淵高等学校 教諭 田呂 雄一

「グローバル化への進展と地域創生に寄与できる、科学的
視点を踏まえた学校農業クラブ活動指導はどうあるべきか」

北海道東藻琴高等学校 教諭 八尾健太郎

東北支部

「“主体的・対話的で深い学び”に対応した教科指導はどうあるべきか」

岩手県立遠野緑峰高等学校 教諭 寺長根一真

山形県立置賜農業高等学校 教諭 今井 吉紀

「社会のグローバル化に対応した安全・安心な農業教育及び
関係機関等と連携したキャリア教育の推進はどうあるべきか」

秋田県立能代西高等学校 教諭 渡辺 均

宮城県迫桜高等学校 教諭 千葉 亮

「生徒の実践的・体験的な学習活動を推進するための

農場運営はどうあるべきか」

青森県立五所川原農林高等学校 教諭 越 洋

福島県立修明高等学校 教諭 郷 貫

関東支部

「地域と連携した学科の取組について」

群馬県立富岡実業高等学校 教諭 三宅 創平

「“乳牛飼育の向上”を目指した酪農実習へのとりくみ」

千葉県立旭農業高等学校 教諭 安藤 善剛

「地域から学び、地域に貢献する環境緑地科の取組」

茨城県立真壁高等学校 教諭 稲毛田真仁

「埼玉県の特色ある教育活動と

地域と連携した農業教育について」

埼玉県立児玉白楊高等学校 教諭 山崎 聡

「特色ある教育活動と課題」

静岡県立静岡農業高等学校 教諭 山中 浩典

「農産物トレンド調査結果を活用した農業実践」

栃木県立宇都宮白楊高等学校 教諭 阿久津晃一

	「地域と連携した農業教育について」			
	山梨県立北杜高等学校	教諭	岡部	新
	「農業総合科・食品製造類型と食品加工部の取組について」			
	神奈川県立中央農業高等学校	教諭	竹内	睦子
北信越支部				
	「経営感覚の醸成を図るための学習指導について」			
	石川県立七尾東雲高等学校	教諭	長谷	良弘
	「地域連携活動を活かした農業教育の取組について」			
	長野県下伊那農業高等学校	教諭	小池	真理子
	「生徒募集・進路指導を見据えた 活力ある学校づくりと情報発信について」			
	新潟県立新発田農業高等学校	教諭	野村	信夫
近東支部				
	「栽培・飼育および流通系科目における教育実践について」			
	大阪府立農芸高等学校	教諭	渡辺	慎也
	奈良県立山辺高等学校	教諭	安原	直彦
	滋賀県立甲南高等学校	教諭	今崎	節子
	「食品加工系科目における教育実践について」			
	三重県立伊賀白鳳高等学校	教諭	西島	淳太
	岐阜県立恵那農業高等学校	教諭	吉村	和倫
	「環境・ヒューマンサービス系科目における教育実践について」			
	愛知県立安城農林高等学校	教諭	山崎	友梨
	兵庫県立有馬高等学校	教諭	長光	雅実
	京都府立峰山高等学校	教諭	田中	信高
	「農業教育における技術の伝承と革新について」			
	滋賀県立八日市南高等学校	教諭	佐久良	紘也
	大阪府立農芸高等学校	教諭	中村	洋平
	奈良県立吉野高等学校	教諭	坂田	一磨
	「生徒を育む農場運営について」			
	岐阜県立岐阜農林高等学校	教諭	辻	浩幸
	三重県立相可高等学校	教諭	達	兼一朗
	和歌山県立有田中央高等学校	教諭	仲里	長浩
	「農業クラブ活動における取組について」			
	京都府立桂高等学校	教諭	前口	良太郎
	愛知県立佐屋高等学校	教諭	野澤	更紗
	兵庫県立篠山東雲高等学校	教諭	田中	裕章

- 中国支部 研究主題「新たな時代を切り開く創造力豊かな
人材の育成をめざして」
- 「食料供給・ヒューマンサービスにおける新たな時代を
切り拓く人材の育成をめざして」
- | | | |
|------------|----|--------|
| 島根県立邇摩高等学校 | 教諭 | 長谷川みつ江 |
| 広島県立沼南高等学校 | 教諭 | 和田 知史 |
- 「環境創造・素材生産・ハイテクノロジーにおける新たな時代を
切り拓く人材の育成をめざして」
- | | | |
|----------------|----|-------|
| 鳥取県立鳥取湖陵高等学校 | 教諭 | 佐々尾 隆 |
| 岡山県立真庭高等学校久世校地 | 教諭 | 宮坂 淳司 |
- 「新たな人材を切り拓く人材の育成をめざして」
- | | | |
|--------------|----|-------|
| 岡山県立高梁城南高等学校 | 教諭 | 福成 真英 |
| 山口県立宇部西高等学校 | 教諭 | 山本 素子 |
- 四国支部
- 「地域で学び地域で育つ神山校」
- | | | |
|------------|------|------|
| 徳島県立城西高等学校 | 指導教諭 | 丸山 稔 |
|------------|------|------|
- 「地域に根ざした農業教育の実践」
- | | | |
|--------------|----|-------|
| 香川県立農業経営高等学校 | 教諭 | 佐藤 広明 |
|--------------|----|-------|
- 「GLOBAL G、A、P、認証取得から海外販売へ」
- | | | |
|------------|----|-------|
| 愛媛県立丹原高等学校 | 教諭 | 能田 恭至 |
|------------|----|-------|
- 「県下農業高校への環境制御導入に向けて」
- | | | |
|--------------|------|-------|
| 高知県立幡多農業高等学校 | 実習助手 | 和田 晃矩 |
|--------------|------|-------|
- 九州支部 共通テーマ「21世紀を生き抜く力を育み、
進化し続ける農業教育の創造」
- 「GAP 教育への取組について」
- | | | |
|---------------|----|-------|
| 鹿児島県立薩摩中央高等学校 | 教諭 | 廣瀬 将孝 |
|---------------|----|-------|
- 「徹底した衛生管理の上に成り立つ食品製造
～これまでの研修で学んだこと～」
- | | | |
|----------------|----|------|
| 大分県立宇佐産業科学高等学校 | 教諭 | 西田 愛 |
|----------------|----|------|
- 「継続的かつ安定的な成長を見据えた
農業教育の展開～食品科学科での実践～」
- | | | |
|--------------|----|-------|
| 長崎県立諫早農業高等学校 | 教諭 | 増本 雅也 |
|--------------|----|-------|
- 「専門科目における環境学習の指導法の工夫
～本学科における環境学習の取組について～」
- | | | |
|--------------|----|------|
| 沖縄県立北部農林高等学校 | 教諭 | 上原 康 |
|--------------|----|------|
- 「学科における専門科目の系統的な学びについて」

～2年次までの学びを課題研究に活かす取組み～

熊本県立熊本農業高校 教諭 梶本 一弥

「宮崎県県北地域の農林業における門川高校の役割と展望について」

宮崎県立門川高等学校 教諭 林田 正栄

「魅力ある学校の創造～生徒・中学校の期待が見える化」

福岡県立久留米筑水高等学校 教諭 伊藤 一也

「生徒募集に関する通り組み～飛翔！MINAMI から風が吹く！～」

佐賀県立唐津南高等学校 教諭 木村 紀元

『農業教育研究協議会研究局研究発表・協議』

○ 森林・林業部会

「森林・林業関連学科が抱える諸問題について」

埼玉県立秩父農工科学高等学校 教諭 井上 陽広

○ 畜産部会

「畜産 GAP を導入した授業の実践」

群馬県立吾妻中央高等学校 教諭 山口 愉隆

『研究局教育課程専門部会誌上発表』

○ 食品系部会

「HACCP 教育導入に向けた授業への応用と課題」

東京都立瑞穂農芸高等学校 教諭 横山 修一

茨城県立鉾田農業高等学校 教諭 湯浅 洋之

千葉県立多古高等学校 教諭 伊藤 義泰

神奈川県立平塚農業高等学校 教諭 田中 康裕

○ 農場運営部会

「農場運営における問題点・課題について」

栃木県真岡北陵高等学校 教諭 後藤 至人

群馬県立富岡実業高等学校 教諭 新木 克彦

埼玉県立杉戸農業高等学校 教諭 野瀬 博史

静岡県立藤枝北高等学校 教諭 藤野 佳孝

○ 研究局本部継続調査

： 大学推薦入学に関する調査

全国 47 都道府県 377 農業高校を対象に平成 30 年度に各校から推薦入学制度を利用して大学へ進学した生徒の実態調査を行った。

： 教育課程に関する調査

全国 47 都道府県 377 校を対象に各校の設置学科、総合学科の系列数を調査、各設置学科及び設置系列での農業科目の履修状況を調査した。

： 農業関係高校における特色ある取組に関する調査

(以上3件の調査結果は、令和元年度研究集録第57号へ掲載・参照)

尚、当公益財団法人研究局では、教育課程専門部会設置当初から教育課程設置科目を植物系・動物系・食品系・環境系・流通経営系・ヒューマンサービス系の6分野の科目群に集約して6部会とし、それぞれがその分野における教育内容や指導方法等について調査・研究を行ってきたが、全国農業高等学校長協会においても以前から当協会と類似した研究部会を設置して同じような内容の調査・研究を実施してきた。

しかし、農業並びに農業教育の充実発展と振興を目的としている2つの組織がそれぞれ別個に同じような調査・研究をしているような無駄は早急に改善し、将来の農業教育のために調査・研究活動を一本化し、両組織の基盤と団結を強化して互いに協力して課題の解決を図る体制を構築してはとの助言を受けた。

早速に両組織からなる検討委員会を立ち上げ検討した結果、当農場協会の教育課程専門部6設置部会を改変して農業校長協会の設置部会数に合わせて、生物生産系部会(畜産・園芸・農業機械)、環境系部会(森林・林業・農業土木・造園)、地域資源活用(食品・流通・生活・ヒューマンサービス)、学校経営系部会(農業経営・栽培系学科・学校特色化)の4部会に再編した。

今後はこの4部会で調査・研究活動を行い、令和4年度からその研究成果を当公益財団法人と全国学校農場協会共催の農業教育研究協議会で発表し、研究成果の共有化を図るとともに研究集録並びに当協会ホームページで公開する。

2) 学術及び科学技術の推進を目的とする事業

(1) 農業実験実習講習及び教員免許状更新講習

全国6地区で実施した。この実験実習講習(教員免許状更新講習は選択領域:18時間が認可)は、農業教員として必要な高いレベルの農業技術や最新技術を取得してスキルアップを図ること。また教師としての資質・能力と教育者としての認識を高めることを目的として、当公益財団法人から文部科学省へ開講を申請し、学校の夏季休業中の5日間の日程で実施した。

尚、今年度の受講者は83名、このうち教員免許状更新講習対象者は39名であった。例年通り全ての受講者が熱心で且つ意欲的に取り組んでいたとのことで全員に修了証を授与することができた。

『講習会概要と受講者数』・・・()は免許状更新講習対象者

・北海道地区	「農業と環境」	帯広畜産大学	9名(6)
		令和元年7月29日(月)～8月2日(金)	
	講師:佐藤 禎稔(教授)	仙北谷 康(教授)	
	河野 洋一(助教)	窪田さと子(助教)	
・東北地区	「農業と環境」	山形大学	19名(0)
		令和元年7月29日(月)～8月2日(金)	

- 講師：西澤 隆 (教授) 堀口 健一 (教授)
 村山 秀樹 (教授) 藤井 弘志 (教授)
 角田 憲一 (准教) 松山 裕城 (准教)
- ・ 関東地区 「農業と環境」 立正大学 11名 (10)
 令和元年 8月 5日 (月) ~ 8月 9日 (金)
 講師：須田 知樹 (教授) 米林 仲 (教授)
 後藤真太郎 (教授) 中川 清隆 (教授)
 白木 洋平 (准教) 北沢 俊幸 (准教)
 渡来 靖 (准教) 鈴木ハーカー明日香 (助教)
 季 盛源 (講師) 平田 英隆 (助教)
- ・ 近東地区 「農業と環境」 龍谷大学 23名 (16)
 令和元年 8月 19日 (月) ~ 8月 23日 (金)
 講師：樋口 博也 (教授) 植野 洋志 (教授)
 島 純 (教授) 森泉美穂子 (准教)
 塩尻かおり (講師) 中川 千草 (講師)
 渡邊 洋之 (講師)
- ・ 中国地区 「農業と環境」 県立広島大学 12名 (7)
 令和元年 8月 19日 (月) ~ 8月 23日 (金)
 講師：福永 健二 (教授) 入船 浩平 (教授)
 萩田信二郎 (教授) 山本 幸弘 (准教)
- ・ 九州地区 「野菜・農業機械」 大分県立農業大学校 9名 (0)
 令和元年 8月 5日 (月) ~ 8月 9日 (金)
 講師：玉田 正直 (教授) 河野 誠二 (教授)
 佐伯 知勇 (准教授) 田中 秀貴 (業務技師)
 その他農水研究センター研究員

上記の通り、当年度は実験実習講習を実施した6地区のうち4地区で教員免許状更新講習を実施したが、その内の2地区に於いて農業教諭以外から家庭科教諭等5名の受講者があった。

(2) 免許法認定講習 (実習助手単位認定講習)

全国の農業高校に勤務する農業実習助手を対象にして、実習助手としての資質並びに農業技術力の向上を図ることを目的として、当公益財団法人より、東京農業大学及び北海道酪農学園大学に開講を要請し、開講大学と文部科学省との連携事業として実施した。

『講習会概要と受講者数』

- 東京農業大学 厚木キャンパス 受講者数： 43名
 開講科目：「農業科教育法」・・・1単位 「教育心理学」・・・1単位

開講期間：令和元年 8 月 20 日(火) ～8 月 23 日 (金) 4 日間

講 師：小池安比古 (教授) 石川 一憲 (教授)
増田 宏司 (教授) 鈴木 聡志 (准教)
緩利真奈美 (准教) 平之内孝夫 (非・講師)

○北海道酪農学園大学 受講者数： 39 名

開講科目：「農業概論」・・・1 単位 「教育方法論」・・・1 単位

開講期間：令和元年 8 月 5 日 (月) ～8 月 8 日(木) 4 日間

講 師：中辻 浩喜 (教授) 船津 保浩 (教授) 日向 貴久 (准教授)
小八重善裕 (准教授) 大西 千郷 (非常勤講師)

(3) 農業教育功労者表彰及び感謝状の贈呈

本年度は全国の全支部 (8 支部) から 140 名の表彰候補者の推薦があった。農業教育功労者審査会を令和元年 6 月 17 日(金) に開催し、農業教育功労者表彰規定に基づいて厳正・慎重に審査を行った。その結果、一部規定条件に合致せず、不合格該当者が 3 名、表彰該当者 137 名であった。

しかし不合格となった 3 名については、一部規定条件は満たしていないが、農業教育への実績・貢献は顕著であり審査委員全員一致で特別に感謝状を贈呈することに決定した。各支部の結果の詳細は以下の通りである。

[令和元年度農業教育功労者表彰審査結果]・・・(数値は人数)

支 部	候補者	合格者	不合格者	審議事項
北海道	3	3	0	0
東 北	9	9	0	1
関 東	40	39	1 (感謝状)	8
北信越	13	13	0	7
近 東	26	26	0	1
中 国	19	19	0	1
四 国	8	7	1 (感謝状)	1
九 州	22	21	1 (感謝状)	4
計	140	137	3 (感謝状)	23

・審査委員

日置 司明 一ノ瀬 淳 橋本 倉司 斎藤 義弘
風間 龍夫 田原 良敏 田中 平一 戸塚 厚生
末松 茂孝 大橋 幸男 鈴木 隆 須賀 秀次

・表 彰：本公益財団法人規定により令和元年度各支部大会で表彰した。

(4) 第 3 回和牛甲子園開催支援 (J A 連合会との連携後援事業)

全国農業協同連合会が、全国の農業高校で科目「畜産」の一領域である和牛の肥育実習を行っている生徒たちに目的意識や学習意欲の高揚、また将来の畜

産業を担う人材の育成を目的として実施している「第3回和牛甲子園」の開催を引き続き後援した。その概要は以下の通りである。

1) 開催期間：令和2年1月16日（木）10：00～・1月17日（金）8：00～

2) 開会式・褒賞式及び関連行事

①1月16日（木） 会場：品川グランドホール（THE GRAND HALL）

- ・開会式：10:00～
- ・取組発表会：10:40～17:10
- ・学校交流会：17:30～

②1月17日（金）

- ・枝肉審査・共励会：8:00～10:30 会場：東京都中央卸売市場食肉市場
- ・講演会：11:00～12:00 会場：品川グランドホール（THE GRAND HALL）
- ・褒賞式：12:45～ 会場：品川グランドホール（THE GRAND HALL）

3) 出場県数・出場校数・出品頭数・参加生徒数及び教員数

- ・出場県数：17 県
- ・出場校数：30 校（初出場9校）
- ・出品頭数：44 頭
- ・参加生徒数：105 名
- ・参加教員数：50 名

4) 審査結果

部 門・褒 賞 学 校 名

i、総合評価部門

- ・最優秀賞（1校） 鹿児島県立市来農芸高等学校（初優勝）

ii、取組評価部門（体験発表順に掲載）

- ・最優秀賞（1校） 鹿児島県立市来農芸高等学校
- ・優秀賞（2校） 鹿児島県立鶴翔高等学校
宮城県小牛田農林高等学校
- ・優良賞（3校） 神奈川県立中央農業高等学校
広島県立西條農業高等学校
岐阜県立飛騨高山高等学校

iii、枝肉評価部門（枝肉番号順に掲載）

- ・最優秀賞（1頭） 岩手県立水沢農業高等学校（枝肉番号64）
- ・優秀賞（2頭） 岩手県立水沢農業高等学校（枝肉番号65）
岐阜県立飛騨高山高等学校（枝肉番号85）
- ・優良賞（3頭） 栃木県立真岡北陵高等学校（枝肉番号76）
広島県立西條農業高等学校（枝肉番号92）
鹿児島県立市来農芸高等学校（枝肉番号97）

iv、審査委員特別賞（新設）

- ・取組評価部門 岐阜県立大垣養老高等学校
- ・枝肉評価部門 栃木県立矢板高等学校（枝肉番号77）

今年度の第3回甲子園から「審査委員特別賞」も新設され、畜産業界の専門家による厳しい審査の結果、入賞校は上記の通りとなった。入賞校には当公益財団法人より賞状を授与した。

尚、本事業における体験発表では何れの高校もこの甲子園を目指し休日や休業日も返上して毎日実践してきた取組や内容を詳細に記録して解りやすく配布資料に纏め、パワーポイントを駆使して発表に工夫を凝らすなど若者らしく澁刺とした発表であった。回を重ねるごとに内容も充実し、参加している生徒達の瞳の輝きの強さから若者の生きる力の強さと、将来の我が国の畜産業界を担う人材を育成するのに大きな期待が持てる事業であると考え。

2、農業教育・環境教育に関するフォーラム、シンポジウムの開催

フォーラム並びにシンポジウムの開催は、当公益財団法人が目的としている農業及び農業教育の持つ重要な役割の理解の深化と啓発を図るため、地域の農業関係団体や研究機関、大学等と連携して、主に地域住民を対象にしたの自由参加によるオープンディスカッション形式で開催し好評を博すと共に大きな成果を上げてきた。

本事業年度に於いては、下記の当該事業を実施した。

(1) 第4回アグリ・夢・みらい塾 兼 農業女子フォーラム in 岡山

- ・主催：岡山県農林水産部、JA岡山中央会、岡山県教育委員会高校教育課
公益財団法人全国学校農場協会、県農林漁業担い手育成財団他

1) 日時・会場

- ・令和元年7月22日(月) 13:00~16:30
- ・県立青少年農林文化センター三徳園研修交流館会議ホール
- ・事務局校及び担当者
 - ・岡山県立高梁城南高等学校 教諭 福成 真英

2) フォーラム次第・内容

- ・開会のあいさつ
- ・情報提供（農業高校・農業大学校・酪農大学校・農林漁業担い手育成財団）
- ・交流会：テーマ「令和の時代！～農業女子のトリセツ教えます！！」

参加者で異年齢のグループを8班編成し、農業経営者や就農者との意見交換を通して、農業の魅力や面白さを発見し、自分の目指す農業を見つける。

- ・参加農業者の紹介と自己紹介、
- ・おかやま農業女子の活動紹介
- ・農業クイズ
- ・グループ再編
- ・農業女子のトリセツトーク
- ・農業経営者への質問コーナー
- ・農業経営者からのメッセージ
- ・参加生徒他からの感想

3) 参加者

農業高校生・農業経営者(13名)・農業大学校生・酪農大学校生・大学生・教員・就農者・関係者等 合計 128名

4) 閉会のあいさつ

以上、農業に係わる様々なジャンル・立場から、また様々な年齢層の人々が一堂に会して、農業の現状や苦しいこと、楽しいことや農業に託す将来の夢などについて就農者や農業経営者を交えて直接の意見交換をしたり、農業女子の体験談を聞くことが出来たことは農業高校生にとって極めて有意義な会であった。

当公益財団法人は、将来の日本農業を担う農業高校生のためにこの様な事業の充実に全力で取り組ん行きたい。

(2) 柏の葉オープンディスカッション・・・農業高校支援機構と共催

1) 日時・会場

- ・令和2年2月9日(日) 13:00～16:00
- ・千葉大学シーズホール(柏の葉キャンパス駅 徒歩8分)

2) ディスカッション「テーマ」

テーマ:「あなたは何を信じていますか?～FACTFULLNESS,そして信仰～」

キーワード: **食 と 農 と 祭**

3) ディスカッションメンバー

- ・古在 豊樹 元千葉大学教授、植物工場研究会会長
- ・徳山 郁夫 元千葉大学教授 カルネット理事
- ・尾田 正二 東京大学教授
- ・野田 勝二 千葉大学教授
- ・横山 和成 (株)DGCテクノロジー

4) 参加者

地域一般住民・学生・大学教職員・当協会々員等 合計43名

近年、地球環境の急激な変化や止まることなく高度化する科学技術によって、我々の日々の生活もこれまでの概念では対応しきれない程に変化をしています。このような中で若者たちは生活の便利さと物や食べ物の豊かさを当たり前のごとく満喫し、食べ物を生産するための農作業の大変さや辛さ、またそれを通して得る収穫の喜びなどを実感したり、体験したりする機会もない生活を送っている。

また、気候変動による地球温暖化や集中豪雨災害等が多発し甚大な被害を蒙っている。これからこの様な地球的規模での課題に向き合って生きていくためには、今私たちはどのような生活を構築しておけばよいのでしょうか。「生きる」とは、ただ単に“知る”ではなく「行動すること」だと言われます。限られた短い時間の中での意見交換であったが、キーワードとした日本の生活文化の礎である食・農・祭に思いを巡らし今一度生活を見つめなおす機会になることを期待したい。

3、地域文化(文化・芸術・文芸)振興に関する事業

(1) 全国農業関係高等学校エッセイコンテストの実施

日本農民文学会との共催によるエッセイコンテストを実施した。今年度で11回目を迎えた。全国の農業関係高校より各校で厳選された12編の作品の応募があり、厳正な審査の結果、以下のように入賞者が決定した。入賞者には、賞状並びに副賞を授与した。

[令和元年度 審査結果]

- ◎最優秀賞 : 『兄弟で地域と繋がった新しい高原野菜栽培を实践したい』
長野県佐久平総合技術高等学校 小松 大晴
- 優秀賞 : 『NAMAHAJE ダリアで秋田は元気!』
秋田県立金足農業高等学校 宮川 莉嘉
- 優秀賞 : 『気づき』
栃木県立宇都宮白楊高等学校 鈴木 梨花
- 優秀賞 : 『“地域おこし” 私達にできること』
長崎県立諫早農業高等学校 濱崎 莉未
- 佳作 : 『高校で学んだこと』
栃木県立宇都宮白楊高等学校 佐藤 美樹
- 佳作 : 『新しい緑化技術で自然環境を守る』
大阪府立園芸高等学校 阪上 太洋

[審査委員]

- ・公益財団法人全国学校農場協会 理事長 日置 司明
- ・日本農民文学会 会長 島津 治夫
- ・全国高等学校農場協会 会長 小堀 紀明
- ・全国高等学校農場協会 事務局長 須賀 秀次

尚、審査会を令和元年12月9日(月)上記審査員全員出席の下で開催、審査結果を12月25日に本協会ホームページ並びに機関新聞紙上に掲載・発表するとともに最優秀作品を農民部文学会機関誌「農民文学」誌上に掲載した。

(2) 農業関係高等学校 農業・農村フォトコンテストの実施

日本棚田学会との共催による農業・農村フォトコンテストを実施した。今年度で5回目を迎えた。全国の農業高校から生徒40名・52作品、職員4名・6作品、合計58作品の応募作品が寄せられた。早速にプロカメラマンを審査員に加えて審査会を開催、厳正な審査の結果、以下のように入賞者が決定した。入賞者には賞状並びに副賞を授与した。

[令和元年度 審査結果]

《生徒の部》

- ◎最優秀賞 : 『散 歩』
埼玉県立熊谷農業高等学校 篠田 渉

- 優秀賞 :『一生懸命』
静岡県立田方農業高等学校 成川 翔
- 優秀賞 :『スズメ歓びて』
埼玉県立熊谷農業高等学校 伊藤 理名
- 佳作 :『ちょっとだけ休憩』
福島県立田島高等学校 大竹 春歌
- 佳作 :『響けユーフォニアム』
埼玉県立熊谷農業高等学校 堀口 絢音

《職員の部》

- ◎最優秀賞 :『秋の始まり』
長野県下高井農林高等学校 教諭 小松 和也
- 優秀賞 :『初めてのスーパーカー』
埼玉県立熊谷農業高等学校 教諭 野口 昌俊

[審査委員]

- ・ 棚田学会会員 写真家 安井 一臣
- ・ 棚田学会 会長 山路 永司
- ・ 公益財団法人全国学校農場協会 理事長 日置 司明
- ・ 全国高等学校農場協会 会長 小堀 紀明
- ・ 日本農民文学会 会長 島津 治夫

尚、審査会を令和元年12月9日（月）に上記審査員全員出席の下で開催、厳正な審査の結果上記の入賞者を決定した。入賞作品は棚田学会総会会場に展示・発表すると共に主催団体の機関誌に掲載した。

4、広報活動並びに機関誌・図書等の刊行に関する事業

(1) 広報活動

当公益財団法人の広報活動は、機関新聞発行とホームページによる。

1) 機関新聞「公益財団法人全国学校農場協会新聞」による広報

年に4回発行して各会員に郵送すると共に関係省庁や研究機関、大学や関係団体等へ配布している。主に当公益財団法人の事業や調査・研究活動等についての報告・予定及び各支部の活動状況の紹介が中心である。

2) ホームページによる広報

当公益財団法人の会務・事業・会計収支を含む公益財団の概要を掲載すると共に会員及び一般の人々に対して農業及び農業教育に関する研究成果の公表、研究協議会・シンポジウム・講演会等の告知、協力他団体との連携と情報公開などに努めた。

(2) 研究集録・図書・刊行物等の発行に関する事業

1) 研究集録の発行

当公益財団法人研究局並びに全国高等学校農場協会振興局での調査・研究の成果、当事業年度の事業・活動の結果等を研究集録第 57 号としてまとめて発行し、関係諸機関・関係団体をはじめ研究団体や会員校など広く一般に配布並びに提供した。

2) 図書・刊行物等の発行

全国高等学校農場協会が農業教育補助教材として刊行していた「農業学習ノート」を平成 30 年度から公益財団法人全国学校農場協会の「公益事業」として移行して発行した。

当事業年度においても「農業学習ノート・トウモロコシ」及び「農業学習ノート・ダイコン」発行、また従来からの「実習手帳」も発行した。いずれの刊行物も販路が拡大し、農業高校に学ぶ生徒達の学習成果の向上を図る上で大きく役立てることが出来た。

II 収益事業に関する件

- 当公益財団法人は、所有ビル 1 階部分を 2 店舗（white space labo 及び 和）に賃貸した。
- 事業部販売の実習着への当協会マーク使用料
- 当公益財団刊行の農業学習ノート「とうもろこし」及び「ダイコン」、並びに「実習手帳」の販売

以上、当公益財団法人の令和元年事業年度の事業や活動状況、経費収支等について要点を中心にまとめた。しかし冒頭でも述べたが、事業の運営や研究活動の進め方、連携事業の在り方など解決を要する課題や改善点が多々ある。これらの解決に早急に取り組み、事業並びに諸活動の更なる充実を図って行きたい。